

県内外で活用広がる カードゲーム「moritomirai」

日本の森林に関心を持ち、持続的な活用に必要な行動について考えてもらおうと、山梨日日新聞社、ビジネスゲームなどを手掛ける「プロジェクトデザイン」(富山)の2社が開発したオリジナルカードゲーム「moritomirai」が、県内外で活用を広げている。2022年11月から体験会を始め、23年3月に本格リリース。体験会開始から24年3月までの1年5カ月で、23都府県で106回の体験会を開催し、延べ3091人がプレーした。山梨県内では小学生から社会人まで幅広い年代向けに体験会が開かれているほか、県外では岐阜県で山梨県以上に体験者数が増えているなど、正式リリースから1年が過ぎ、「moritomirai」を通したやまなしSDGsプロジェクトの取り組みが活発化している。



紹介動画はこちら→



山梨県内の体験会

小学校、イベント中心に開催 県外からも参加者集まる

山梨日日新聞社は県内各地の小学校やイベントなどで、カードゲーム「moritomirai」の体験会を開いている。4月25日には甲府・県立やまなし地域づくり交流センターで開催。県内のほか、東京、大阪、山形、静岡、長野からも参加者が集まり、楽しみながら持続可能な森づくりを疑似体験した。

ゲームは参加者全員が一つの町に住んでいるという設定で、それぞれが「木を切る人」「販売会社の社員」「学校の先生」など10の役割のうち一つを担当。「木造の建築をアピール」「バイオマス発電を行う」といった「仕事カード」と、「木製の家具を買う」



いずれも甲府市内で開いた体験会の様子(4月)

「植樹イベントに参加する」のような「生活カード」を使って、「森への愛情」「手入れ・管理」など森林の現状を示す四つのメーターの増減に配慮しながら、設定された資金の獲得、メーターの設定値クリアを目指す。

同日は会社員、公務員、学生ら26人が参加。居住地や立場もさまざまな参加者が10の役割ごとにチームを組み、情報交換や連携をしながら、各役割のゴール、持続可能な森づくりを目指した。

山形県飯豊町の地域おこし協力隊としてSDGsや林業に関わる活動をする、後藤武蔵さん(32)、小野優太郎さん(32)の2人は同カードゲームの公認ファシリテーター取得を考えて参加。後藤さんは「飯豊町は町の80%以上が森林ですが、近くにあっても住民の森林への関心は低いです。楽しみながら学べるカードゲームをぜひ飯豊町で実施したいと感じました」と、小野さんは「体験会を通し、興味関心が森林整備のスタートだと感じました。一般の人に、森との関わり方を考えてもらおうきっかけになるゲームだと思います」と感想を話した。



岐阜・国立乗鞍青少年交流の家

体験者数最多は飛騨高山 学校にPR、教員から高評価

岐阜県内では、2023年度のカードゲーム「moritomirai」の体験者数が1034人に上った。山梨県内は959人で、山梨以上に岐阜で体験者が増えている。その要因は、岐阜県高山市の「国立乗鞍青少年交流の家」の職員による積極的な活用だ。

交流の家は、岐阜県側の乗鞍岳中腹にある乗鞍高原に位置する青少年教育施設。研修棟、宿泊棟、体育館、グラウンド、キャンプ場、スキー場などさまざまな施設があり、自然体験活動やコミュニケーション能力を育むプログラムを提供している。

「moritomirai」は、交流の家の新たなプログラムの一つとして活用しようと、2023年2月の第1回目の公認ファシリテーター養成講座に2人参加。現在、公認ファシリテーターは5人に増え、昨年度は高山市内の小学校を中心に20回の体験会を実施した。

岐阜県内での体験会の印象について、交流の家の谷崎誠次長は「これまで交流の家では、利用された団体に対して体験活動を提供すること

にとどまっていたが、『moritomirai』は『交流の家の体験』と『学校生活や日常での学び』とをつなぐ役割を果たしてくれますので、学校に戻ってからも地域や環境について持続的に学習することができると毎回好評でした」と話す。

交流の家がある岐阜県の飛騨高山地域は、面積の90%以上が森林で、林業やそれに関連する産業が盛んなエリア。地域の特性にもマッチした「moritomirai」の体験会を、本年度は50回実施を目指して開催していくという。



いずれも高山市の中山中の教員を対象にした体験会の様子(2月)

カードゲーム「moritomirai」の流れ

① 役割決め

「山を持っている人」「木材を加工する人」「販売会社の社員」など10の役割のうち、どれを担当するか決め、席に座ります。(一つの役割を1~4人で担当)

② 説明

ゲーム開始の前に日本の森の現状とルールの説明を進行役のファシリテーターが行います。

③ ゲーム開始

1ターン目の「仕事カード」、「生活カード」を使い、ファシリテーターから結果のカードを受け取ります。結果により、お金や「まち・森の状況メーター」が増減します。(各ターンの制限時間は7~10分間)

④ 4ターンで終了

1ターン目同様、2~4ターンを行います。各ターンの制限時間内には別の役割のプレーヤーと情報交換し、お金のやり取りをすることもできます(カードの交換はできません)。4ターン目が終わるとゲーム終了となります。

⑤ 振り返り

ファシリテーターが参加者にさまざまな質問をし、ゲームを振り返りながら森林について考えます。

